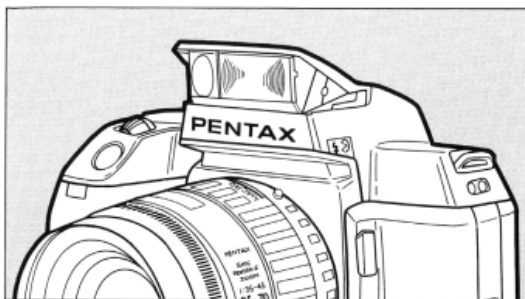


14. AFスポットビームを使います



内蔵ストロボのまとめ

ガイドナンバー[GN]	12[ISO 100のとき]
充電時間	約4秒
使用フィルム感度	ISO 25~400
プログラムストロボでの 撮影範囲	約0.9m~4.3m [F2.8のとき]
使用レンズ	35mmから210mmまで 35mmは1m以上でお使いください。 マクロレンズは除きます。

暗い所では、オートフォーカスができなくなりますが、SF7では内蔵ストロボを飛び出させて、シャッターボタンを軽く押すと、赤色光が自動発光して約1~4mの範囲でオートフォーカスを働かせることができます。
この赤色光を「AFスポットビーム」と言います。

- AFスポットビームは、**AF** [オートフォーカス] のときのみ働きます。
- ストロボを使わないときは、ピントが合った所で、フォーカスロック[20ページ]をしたまま、内蔵ストロボを収納して撮影することもできます。
- 明るい所ではAFスポットビームは働きません。
-  が点滅しているときは、ピント合わせができないときです。[45~47ページをご覧ください。]
- AF400FTZやAF240FTのAFスポットビームを使うときは、内蔵のAFスポットビームは働かなくなります。

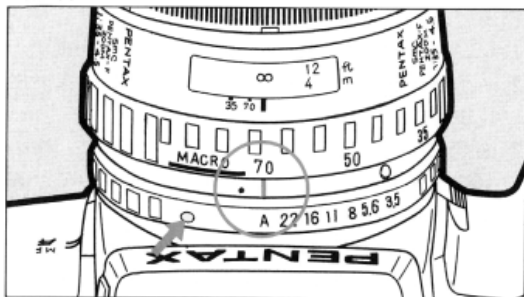
基本撮影編はこれでおしまいです。⇒

33●



SMC PENTAX-F[Fレンズ]とSF7での「露出方式」の組み合わせ

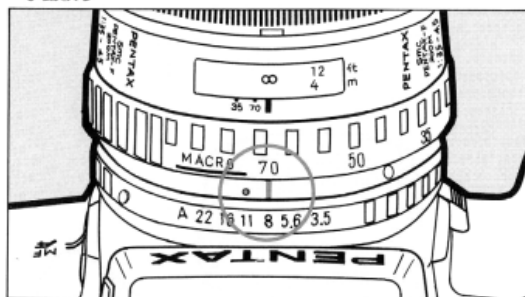
●絞りA



FレンズとSF7を組み合わせてご使用になりますと、プログラム自動露出のほかに、レンズの絞りの位置によって、各種の「露出方式」が得られます。

絞りをAまたは、手動絞りにするときは、矢印のレンズのボタンを押したまま、絞りリングを回します。

●手動絞り

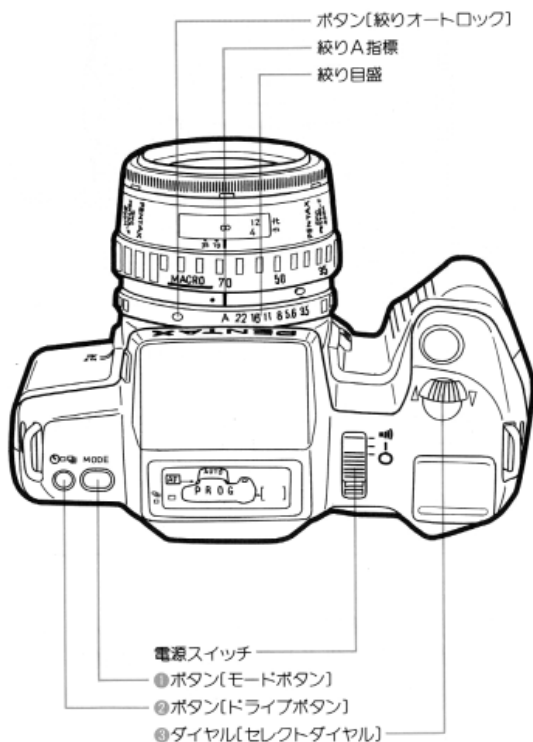


○	プログラム自動露出
A 絞りA	シャッター優先自動露出
○	絞り優先自動露出
11 8 5.6 手動絞り	マニュアル露出 bulb [バルブ]

*手動絞りで使うとき

図のように、開放F値が変わるズームレンズは赤線指標の横の色点が望遠側の絞り指標になります。[Fレンズの説明書もご覧ください。]

35●



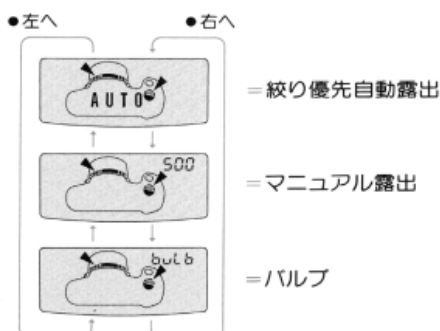
露出方式の選び方

1. レンズの絞りを **A** か **A** 以外に合合わせます。
 2. スイッチを **I** か **II** にして、電源を「入」にします。
 3. 図①の灰色の **○** ボタンを押したまま、③の **●** ダイヤルを右か左に一回づつ動かして、露出方式を選びます。
- * ①の **○** か②の **●** ボタンを押すと表示パネルの **●▲** が点滅して、次に **●** ダイヤルを動かすことを知らせます。
- * シャッター優先自動露出やマニュアル露出では、**●▲** が表示され、次に **●** を動かすことを知らせます。
- * 右図のように、「露出方式」の表示が変化します。
- * **●** ダイヤルを押したままにすると、表示が早送りします。

絞りがAのとき



手動絞りのとき



SF7の露出測光システムについて

SF7は、ペンタックス独自の分割測光システムを採用し、被写体〔写したい物〕と背景に明暗差がある逆光条件などでも、露出が自動補正され適正露出が得られるようになっています。〔プログラム・絞り優先・シャッター優先自動露出時〕

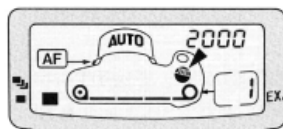
また、さらに極端な明暗差のもとではTTL自動測光の内蔵ストロボやメモリーロックを使用することにより、手軽にきれいな写真を撮ることができます。なお、マニュアル露出やメモリーロック使用時は、中央〔ファインダー中央部〕部分測光に切り替わりますので、多彩な撮影テクニックをお楽しみいただけます。

37 ●

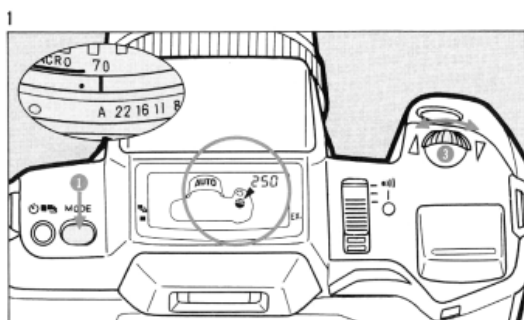
シャッター優先自動露出の使い方

シャッター優先自動露出

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に変わり、適正露出が得られます。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を表現するのに特に適しています。



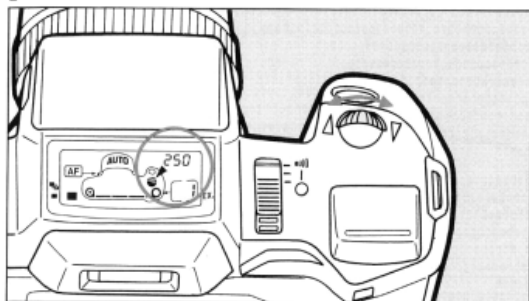
が表示して、シャッター速度が選べることを知らせます。



1. 絞りを **A** に合わせます。

図のように、**AUTO** と「シャッター速度」が表示されるように、①の ボタンを押したまま、③の ダイヤルを動かしてシャッター優先自動露出にします。

2



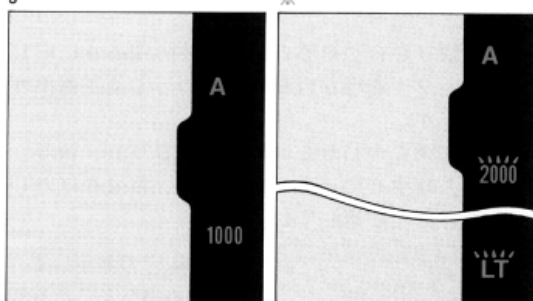
2. シャッター速度を選びます。

図のように、速い速度にするとときは ダイアルを左へ、遅い速度にするとときは右に動かします。

* 一回づつ動かすごとに表示が変わり、押したままにすると早送りします。

* 2000[1/2000秒]～1[1秒]まで表示します。

3



3. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に **A** と、選んだ「シャッター速度」が光ります。[1/15～1秒のときは **L T** が光ります。]

※露出警告

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内の表示のどちらかが点滅して警告します。遅い速度[**L T** 側]、または、速い速度[**2000**側]に変えて、点滅しなくなれば撮影ができます。

30～**L T**[1/30、1/15秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。

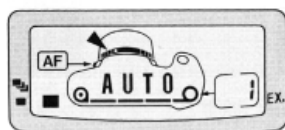
39 ●

絞り優先自動露出の使い方

絞り優先自動露出

希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。

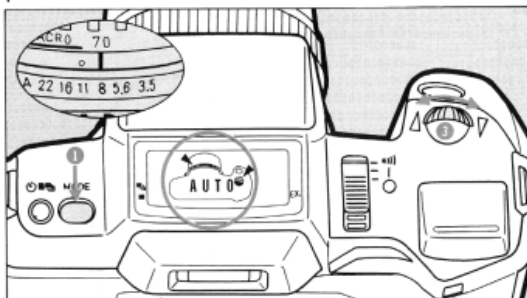
ビントを深く合わせたい風景や集合写真、接写、また、人物中心にビントを合わせ、背景をぼかしたいときなどに適しています。



が表示して、絞りを選べることを知らせます。

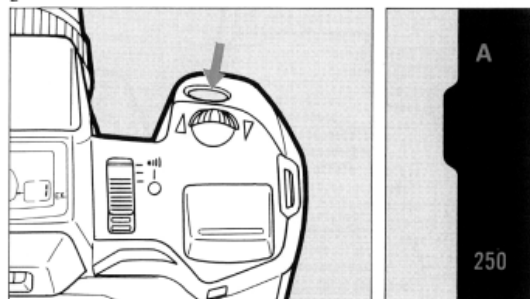


1

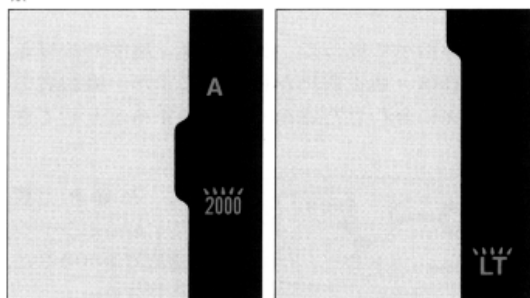


1. 手動絞りにします。

図のように、**AUTO** が表示されるように、①の ボタンを押したまま、③の ダイアルを動かして絞り優先自動露出にします。



2. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に「A」と、選んだ絞りに応じた「シャッター速度」が光ります。[1/15～1秒のときは、LTが光るか、点滅して露出警告をします。]



※露出警告

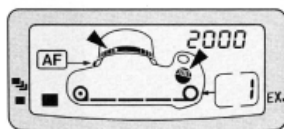
被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内の表示が点滅して警告します。絞りリングをF22など大きい数字の方へ回すか、F1.4など小さい数字の方へ回して点滅しなくなれば撮影できます。

30～LT[1/30、1/15秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。[ファインダー内の露出警告表示62ページもご覧ください。]

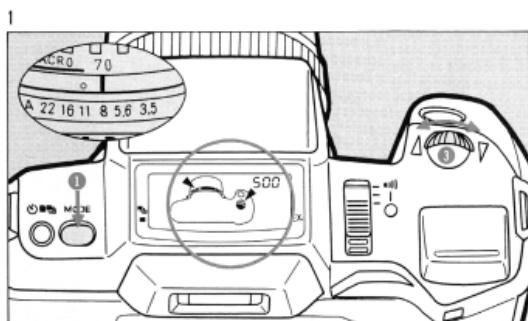
マニュアル露出の使い方

マニュアル露出

露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で、撮影することもできます。



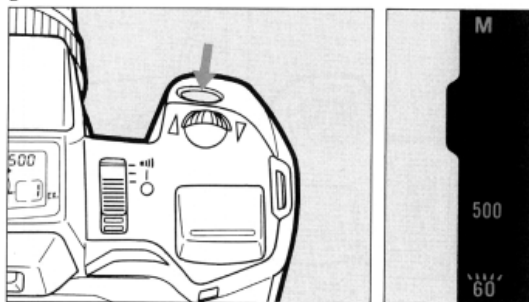
☐と☐が表示して、絞りとシャッター速度が選べることを知らせます。



1. 手動絞りにします。

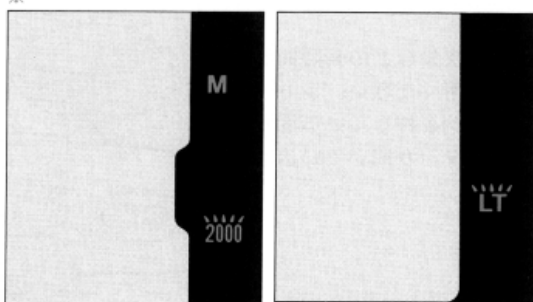
図のように、「シャッター速度」が表示されるように、①の☐ボタンを押したまま、③の☐ダイヤルを動かしてマニュアル露出に合わせます。





2. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に **M** と「シャッター速度」が光ります。
 [1/15～1秒のときは、**L T**が光るか、点滅して露出警告をします。]
 例えば、図のようにシャッター速度が点滅したときは、露出が合っていないときです。シャッター速度や絞りを調節して、点滅が消えて一つの表示が光るようにすれば適正露出になります。

- * 絞りリングを回しても適正露出にならないときは、シャッター速度を合わせ直します。
- * シャッター速度を変えても、適正露出にならないときは、絞りを合わせ直します。



※露出警告

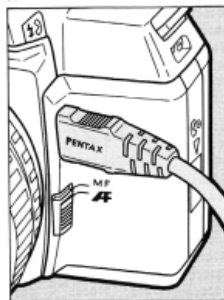
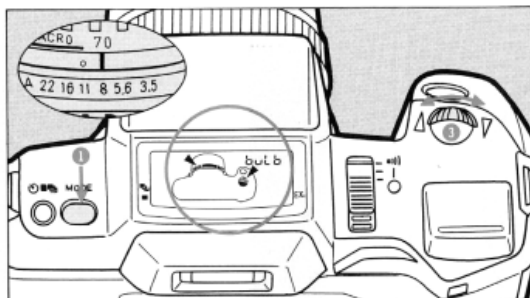
被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内の表示が点滅して警告します。絞りリングを **F22** など大きい数字の方へ回すか、**F1.4** など小さい数字の方へ回して点滅しなくなれば撮影できます。

30～**L T** [1/30、1/15秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。
 [ファインダー内の露出警告表示62ページもご覧ください。]

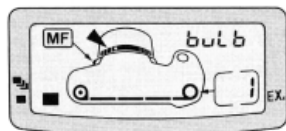
bulb [バルブ]

バルブ露出

花火・夜景などの長時間撮影にご利用ください。シャッターボタンを押している間だけシャッターが開いています。



※バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、図のように別売りの「ケーブルスイッチ F」をリリースソケット F に差し込んでご使用ください。



☞ が表示して絞りを選べることを知らせます。

絞りは、手動絞りにします。

①の ボタンを押したまま、③の ダイアルを動かして **bulb** [バルブ] 表示を出します。

* シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に **M** が光ります。

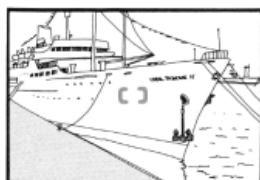
※ バルブ撮影のときは、セルフタイマーは使えません。

* 新品のリチウム電池[常温]で、約10時間の長時間露出ができます。

オートフォーカス機構は高精度のものですが、万能ではないため被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによっては、ピントが合わないことがあります。[マニュアルフォーカスでも同じです。]

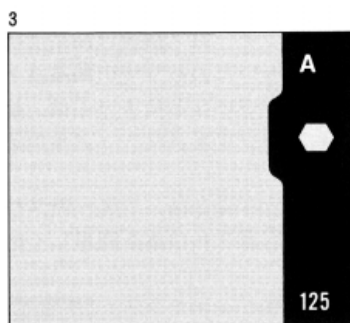
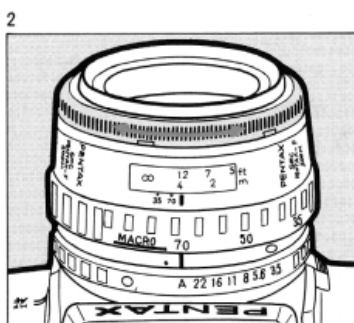
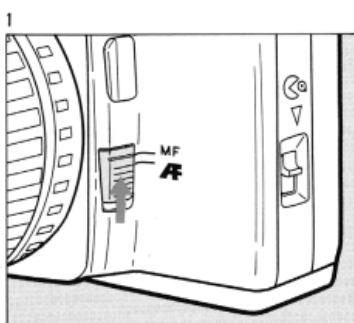
このような場合は、フォーカスロック撮影や暗い所では内蔵ストロボを利用してお使いください。

- 白壁などコントラスト[明暗差]の非常に低い被写体。
- 光を反射しにくい被写体。[真黒いものなど]
- 非常に速い速度の被写体。
- 横線だけの被写体。細かい模様の被写体。
- 遠・近の物が [C] の中で混在する被写体。
- 反射の強い光、強い逆光、周辺が特に明るい被写体。



45 ●

MF [マニュアルフォーカス]でのピントの合わせ方



従来のペンタックスK_AおよびKマウントレンズで、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ[F5.6~F1.2]を使うときは、ファインダー内の [C] に従って手動によるピント合わせができます。なお、K_{AF} マウントレンズ[Fレンズ]でも、[MF] にすると同じ操作になります。

1. 図のように、レバーを [MF] に合わせます。
 2. シャッターボタンを軽く押したまま、レンズの距離リングを右または左へ回してピント合わせをします。
 3. [C] が緑色に光れば撮影できます。
- ※スイッチが [A] のときは、電子音で知らせます。